自衛隊の現場

真駒内（北海道）
自衛官候補生（平月）の入隊式を挙行
わが子の成長に顔がほころぶ

わが子の成長に思わず顔がほころぶご家族

第120教育大隊（大隊長・池田重雄2等陸佐）は9月30日、第21期一般陸曹候補生および自衛官候補生（平月）の入隊式を真駒内駐屯地において挙行しました。

入隊式には、札幌自衛隊家族会会長、隊友会豊平支部長および北部方面混成団後援会長のほか、真駒内駐屯地司令、道内地方協力本部長などの隊列をいただき、北部方面混成団長立会の下、新隊員ご家族を招待し盛大に行われました。

凛然と式に参加した新隊員は、代表者の号令で、行進や敬礼などの基本教練を実施し、普隊からわずか2週間弱で立派に成長した雄姿をご家族に披露しました。

池田大隊長は式辞の中で「夢を持て、目標を持て、その達成に努力せよ」と要望し、自らの将来を思い描き、明確な目標の確立とあきらめずに努力する重要性を示しました。

その後、新隊員とご家族は、写真撮影および会食に参加し、以前とは一味違う背筋が伸びた凛々しい制服姿に接し、感慨深い時を過ごされていました。

また、今回の入隊式および札幌自衛隊家族会による説明会を通じて、ご家族に対し、自衛隊および新隊員教育に対する理解の促進と安心感を付与することができました。

大隊は一人一人に目を配り、しっかり育て後期部隊に送り出せるよう、全力で取り組みます。

前川原（福岡県）
伝統行事の一つ藤山武装障害走
総合的な戦技能力を競う

候補生による武装障害走

陸上自衛隊幹部候補生学校（学校長・吉川徳等陸将補）は9月22日、第104期一般幹部候補生（防大卒・一般大卒）課程に対し、伝統行事の一つである藤山武装障害走を実施しました。

当日の天候は曇り、気温24℃、温度87％のコンディションの中、約360人の候補生が4人ずつの約90組に分かれて出走しました。

20個の障害が設定された2・2㎞の走路（高低差70㍍）を、候補生は走力、障害通過能力および射撃など戦技能力を総合的に発揮して決勝点（ゴール）を目指しました。

競技の結果、個人男性1位は、1候6区隊・依啓大候補生、女性1位は3候1区隊・大淵みやび候補生、区隊1位は1候6区隊でした。この武装障害走に際して、幹部候補生学校OB会、家族会、隊友会、催行会、駐屯地モニター、候補生家族など約130人の激励を受けました。

名寄（北海道）
第3、第6即応機動連隊で共同訓練
切磋琢磨して練度の向上を図る

躍進する機動戦闘車

第3即応機動連隊（連隊長・藤田明大1等陸佐）機動戦闘車中隊（中隊長・宮司康行3等陸佐）は9月11日から14日までの間「第6即応機動連隊の第2次MCV射撃訓練」に参加して、機動戦闘車の戦闘射撃の練度向上を図りました。

この訓練は、北海道鹿追町に所在する然別演習場で、今年度2度目となる第6即応機動連隊との合同射撃として、105㎜砲および連装統の射撃訓練が実施されました。

初日の連装統射撃では、定置目標に対する射撃および移動目標への射撃を行い、正確な照準および迅速な射撃を練成して、連装統射撃の練度を向上させました。

2日目は、第6即応機動連隊の射撃に引き続き第3即応機動連隊が105㎜砲の練成射撃を行なった後、躍進射撃において2両の機動戦闘車が同時に発進し並走しながら射撃位置での停止射撃、さらに躍進して車両が急停止した直後における正確な照準を演練し、機動戦闘車の機動と火力を発揮させ戦闘射撃の練度を向上させました。

第3即応機動連隊は、今後も他即機連などとの協同訓練を積極的に行い、切磋琢磨して練度の向上を図っていきます。

豊川（愛知県）
UH-1J多用途ヘリで体験搭乗
ローターが巻き起こす風に驚き

UH-1J多用途ヘリと記念写真

豊川駐屯地（司令・與藤公彦1等陸佐）は9月9日、第10飛行隊の支援を受け「令和5年度豊川駐屯地航空機体験搭乗」を実施しました。

この航空機体験搭乗は、駐屯地との信頼の強化を図るため駐屯地モニター、オピニオンリーダー、各種協力者などを対象に行ったものです。

この体験搭乗を通じて、陸上自衛隊（豊川駐屯地）に対する理解と認識を深めることができました。

参加者は、搭乗に先立って安全教育を受け、ヘリポートにおける配念撮影の後、4～5人ずつ順番に航空機に搭乗しました。

今回、搭乗したのは、UH-1J多用途ヘリで、参加者はローターが巻き起こす風に驚き、機体の迫力に歓声が上がりました。

搭乗の順番待ちをする参加女性は「ワクワクが止まらない。今日も朝早くに目が覚めてしまった」など、まだかまだかと順番を待ちわびていました。

体験搭乗後、駐屯地モニターは「すごく気持ちよかった。もっと乗っていたかった」と笑顔がはじけていました。ほかの参加者も台風が来るとの予報も覆す絶好の青空に恵まれ、空からの絶景を「海がきれいだった」「自分の家が空から見られました」と興奮気味に振り返っていました。

福岡（福岡県）
第4師団第2次師団演習を実施
部隊一丸となり、見事任務を完遂

敵と応戦する隊員

第4師団（師団長・戒田重雄陸将）は8月31日から9月10日までの間、日出生台演習場・十文字原演習場・大分弾薬支処・別府駐屯地および同周辺地域において第2次師団演習を実施しました。

本演習では第40普通科連隊（小倉）、第4後方支援連隊（福岡）、第4飛行隊（目達原）の訓練検閲を実施し、領域横断作戦環境下の各級指揮官の状況判断および戦闘力の組織化について評価判定して、じ後の進歩向上を図ることを目的として実施しました。

各受閲部隊は、師団の任務完遂に寄与すべく、最初、所在駐屯地において作戦準備を万全にし、3日未明に状況が開始されると、戦闘地域へ前進して部隊を展開しました。

第40普通科連隊は集結地を占領したのち、師団の攻撃構想に基づき、各種の情報収集手段を用いて情報を収集し、指揮官の明確な企図の下、戦闘指導および戦闘予行を行い、攻撃態勢を確立しました。

攻撃開始以降、判明した敵に対して濃密な火力を発揮して敵を制圧するとともに、敵側背面に対する乾坤一擲（けんこんいってき）のヘリボーン攻撃により、敵の組織的な戦闘を妨害し、師団の主攻撃連隊としての任務を完遂しました。

また、第4後方支援連隊は師団主力の前進に伴い、継続的に補給整備や衛生支援を実施するための施設を推進させ、第一線部隊に対する兵站活動を実施するとともに、段列の移転により、兵站活動を継続し、第一線部隊の強靭な戦闘を支援しました。

さらに、第4飛行隊は、戦闘支援を継続しつつ、戦闘地域へ展開地を開設し、航空偵察、緊急患者後送、第40普通科連隊のヘリボーン部隊との綿密な調整に基づくヘリボーン攻撃により、師団の攻撃に寄与しました。

各受閲部隊は、酷暑に引き続く降雨という極めて厳しい環境下において、統裁官要望事項である「妥協なき任務の完遂」のため、指揮官を核心として部隊一丸となり、見事、任務を完遂しました。

また、さまざまな課題を獲得し、今後の進歩向上の資とすることができました。

久居（三重県）
女性職員活躍サミットに参加
情報交換を実施し、より働きやすい職場に

垣根を超えての意見交換

第33普通科連隊は7月31日、津市消防本部が開催する女性職員活躍サミットに本部管理中隊所属の女性自衛官3人が参加しました。

サミットは、消防、警察および自衛隊で活躍する女性職員が働きやすい職場環境の実現を目指して他機関との施策や職場環境などの情報交換を実施し「より働きやすい職場づくり」に取り組むものであり、今回初めて開催されました。

サミット参加の対象となる女性職員は、勤務歴3年未満の職員、勤務歴10年以上の職員、子育て中の職員であり、津市消防本部、津南警察署、航空自衛隊笠取山分屯基地と白山分屯基地そして陸上自衛隊久居駐屯地の計13人で意見交換が行われました。

始めは、緊張が見えたものの、同じ公務員の女性ということもあり、次第に和んだ雰囲気となり女性特有の悩みや子育て世代では実際に使用している制度についての意見交換を行いました。女性が活躍していくためには何が必要であるか、サミットを通して考える良い機会となりました。

サミットに参加した隊員は「女性が家庭と仕事を両立するには、男性の育児や家事への参加が必要になるため、性別に関係無く働きやすい環境になることを望んでいます」と述べました。

このサミットをきっかけに、今後さらに女性が働きやすい職場になることを参加者全員が祈念し、サミットは無事終了しました。

参加した女性たちは、じ後それぞれの職場環境をより良いものにしていくと思います。

旭川（北海道）
2師団から全国大会ワンツー
全日本青年銃剣道大会個人戦女子

優勝した寒河江士長（右）と斎藤士長

9月21日、旭川駐屯地において、第54回全日本青年銃剣道大会個人戦女子で優勝した第3即応機動連隊所属の寒河江瑞希陸士長および準優勝の第26普通科連隊所属の斎藤彩花陸士長に対し、第2師団長（井上川一友陸将）から表彰状が伝達されました。

大会は8月3日に日本武道館で行われ、女子個人戦には147人が参加し熱戦が繰り広げられました。

優勝した寒河江士長が自衛官である父の勧めで銃剣道を始めたのは、なんと幼稚園の頃。自衛官となった今でも銃剣道は大好きと目を輝かせています。今大会では、昨年度は準優勝だったので「優勝!!」という目標を掲げて挑み、見事、優勝を勝ち取りました。

今後の目標について「来年1月に師団の武道競技会があるので、個人戦でも団体戦でも部隊に貢献できるように頑張りたい」と語っていました。

準優勝した斎藤士長は、自衛隊に入隊してから銃剣道を始めたため経験年数は2年ながら人一倍の負けず嫌い、努力を惜しまない性格でメキメキと腕を上げ、昨年度の同大会個人戦ベスト8から準優勝と大きく飛躍しました。今後の目標は、寒河江士長と同じく師団武道競技会で「昨年は個人戦のみで団体戦に出場できなかったので、今年度は団体戦にも出場して部隊に貢献したい。そして個人戦ではまた寒河江士長と対戦してリベンジしたい」と力強く語りました。

1月に開催される第2師団武道競技会で全日本青年銃剣道大会女子個人決勝が再現されることを期待しつつ、師団は引き続き各種競技で活躍する隊員を全力で応援していきます。

弘前（青森県）
新隊員特技課程教育修了式を挙行
家族会などの激励を受け35㎞完歩

徒歩行進出発前に家族会と

第39普通科連隊（連隊長・菅沼文洋1等陸佐）は9月22日、弘前駐屯地において、新隊員特技課程教育修了式を挙行しました。

この連隊での教育では、隊員たちが軽火器と迫撃砲の2つの区隊に分かれ、それぞれの分野で基本的な知識と技能を習得しました。

軽火器区隊では戦闘訓練や武器の分解と組み立てが、迫撃砲区隊では砲手訓練や弾薬の取り扱いなどが、厳格に指導されました。

教育中の一番の試練とされる「35㎞徒歩行進訓練」は、普通科隊員の徒歩行進能力向上を目指して行われ、その過酷さで知られています。8月28日、この訓練に先立ち、各班長が装備の脱落を防ぐための点検や、背のうが約14㎏の重さか確認するなど、隊官検査が実施されました。

出発前、新隊員たちは自衛隊家族会と弘前駐屯地普友会からの激励を受け、お互いを励まし合う円陣を組んで気合いを入れました。

そして、約10時間にわたる過酷な気象条件、高温多湿の状況に立ち向かい、固い連帯と協力の証として、1人も欠けることなく完歩しました。

この約3カ月間の厳しい教育期間を終え、修了式後、新隊員たちは各中隊に配置され、今後の活躍に期待が寄せられています。

高田（新潟県）
教育修了、39人の門出を祝う
仲間とともに遅しい普通科戦士に

修了式に臨む新隊員

第2普通科連隊（連隊長・小段雄三1等陸佐）は9月20日、高田駐屯地体育館において「令和5年度新隊員特技課程および一般陸曹候補生課程後期教育」の修了式を挙行しました。

7月に東部方面区内の教育隊から高田駐屯地に普隊後、普通科隊員としての共通科目のほか、軽火器と迫撃砲の特技について、日々、教育訓練に励んできました。

小段連隊長は式辞において「教育当初に要望した『国防の職務、自己の職種に誇りを持て』『日々、成長せよ』『同期として団結せよ』の3点について、日々の隊員らの姿や行動から達成できたものと認め、自衛隊の入口の基礎的な教育を修了した。今後、各中隊へ配置にあたって『初心を貫け』『先輩から技を学び取れ』『自分の将来の目標像を確立せよ』の3点をはなむけの言葉とする」と述べました。

修了式後、荒井2等陸士は「教育期間中の思い出として何度も練習して協力し合い、一致団結し取り組んだ砲手訓練と初めての夜間行進で眠気と体力の限界でしたが、同期と励まし合い全員で35㎞を完歩することができました。部隊へ配置されても役に立てるように率先して動けるように頑張りたい」と今後の決意を述べました。

武山（神奈川県）
創立68周年記念行事および開校祭
ダンスバトルで若さ溢れる独創的な演技を披露

観閲行進する生徒

9月30日と10月1日の両日、陸上自衛隊高等工科学校（学校長・今井俊夫陸将補）は、創立68周年記念行事および開校祭を実施しました。

30日の開校祭は、開校祭実行委員長を中心とした生徒会が主導で計画し、生徒会主催イベントや、文化クラブの日々の活動成果の発表などを運営、実施しました。

普段は教場として使用される教室舎では、茶道部などの10個文化クラブが作品などを展示しました。また、講堂において4個クラブ（吹奏楽部・弁論部・吟詠剣詩舞部・和太鼓部）の発表も実施しました。

加えて、グラウンドで実施した生徒会主催イベントでは、審査員として来校した千葉県立君津高校ダンス部の洗練された演技を皮切りに、学年混合の11チームによる「ダンスバトル」を開催しました。学年を越えて団結した各チームは、それぞれが若さ溢れる独創的な演技を披露し、来場者や生徒職員たちを大いに盛り上げていました。

1日の創立68周年記念行事には、国会議員、各職種学校長をはじめ、各協力団体の会長などの来賓に加え、この日を楽しみに全国から駆けつけたご家族をお迎えするとともに、一般の来場者など合計約2000人を超える方々が来校しました。

当日は晴天に恵まれ、グラウンドにおいて記念式典・生徒隊パレード・祝賀飛行・ドリル演技・和太鼓演奏を行いました。

式典の式辞において今井学校長は「生徒制度の創設以来、伝統を継承しつつも、時代の変革に応じて組織、教育内容を充実・発展させて参りました。今後も積極的に新たな分野の人材育成に取り組んでいく所存です」と抱負を述べるとともに、生徒職員に対し「将来の陸上自衛隊の主役を担う『覚悟』で職務にまい進し『信頼』のもと各人が成長しつつ、役割をしっかりと果たしてもらいたい」と期待を述べました。

その後も校内各所において、装備品展示、広報展示、生徒会イベントなどが行われ、コロナ禍から脱して制限のない創立記念行事の一連の行事は、盛会のうちに終了しました。

海幕（市ヶ谷）
次に会うときは制服を着て江田島で
候補生採用試験合格者に対して部隊見学

呉地方総監による質疑応答

募集最盛期の夏が過ぎ、フォロー活動に取り組むタイミングを捉えて海幕募集業推進室は9月12日と13日の両日、海自幹部候補生採用試験合格者を対象として参加者を募り、江田島にある幹部候補生学校（学校長・近藤奈津枝海将補）の見学を監（二川達也海将）に直接質問する時間も設けられました。

参加者は、米海軍をはじめ、他国海軍との連携や防衛駐在官などの海外勤務に係る話題について熱心に聞き入っていました。

参加者からは「実際に幹部候補生学校を見学したことで、そこでの生活や雰囲気を知ることができ、来年はここで生活するんだという実感が湧いた」との声が聞かれ、見学や懇談を通じて、入隊の決意が固まっていく様子が見受けられました。

イベントを企画した海幕募集推進室は「本イベントは、就職前に抱える不安を取り除くことができるようにプログラムを設計しました。初日、呉駅に集合した参加者は、緊張した面持ちでしたが、研修が進むにつれて参加者同士で楽しそうに会話する場面が増えていくのが分かりました。志を同じくする者の存在が不安払拭の特効薬であり、本イベントの意義を再確認することできました。引き続き、募集対象者に寄り添った、よりオープンなイベントを計画していきたい」としています。

漢字あそび 第16回

問題・意外と難しい送り仮名分かるかな？

初級
知らないとちょっと恥ずかしい
・青い海がハテシナク続く。
・和食より洋食をコノム。

中級
意外とやっかい
・試合に負けてクヤシイ思いをした。
・損得をカエリミズに仕事に専念した。

上級
自慢できるかな
・会うなり厳しくナジラレタ。

（解答は、6面に）
（出題・解答・LUCKY）